



平成 26 年 9 月 19 日

新潟市長 篠田 昭 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏
同 新潟地域会 代 表 小川峰夫



新潟市旧會津八一記念館の保存活用に向けての要望書

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
貴市におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、新潟市中央区西船見町にある市所有の會津八一記念館が、同中央区万代 3 丁目に昨年オープンした新潟日報社本社ビル（メディアシップ：複合ビル）内 5 階に移転し、本年 8 月 1 日に開館しました。今後旧記念館の建築物は取り壊され、跡地が公園になる計画と聞き及んでおります。

新潟市旧會津八一記念館は、會津八一の死後、新潟日報社が會津八一を顕彰する目的で財団をつくり、新潟市西船見町の新潟市の敷地に、鉄筋コンクリート造 2 階建て延床面積 425 m²の平等院風建築物の施設を建設し、1975 (昭和 50) 年 4 月に開館しております。その後記念館は財団から新潟市に寄付されております。

設計者は建築家長谷川洋一で、父は戦前に新潟市公会堂や第四銀行住吉町支店等の建物を設計した新潟市の建築家長谷川龍雄です。1977 (昭和 52) 年 11 月発行の記念館の館報に「會津八一記念館の建築計画について」と題して長谷川洋一の思いがつつられています。それによれば、會津の作品の収集展示にふさわしい力強さと格調高さを意識し、「敷地周辺の自然環境に対して違和感ない様心掛けた」、「外壁の大半を日本古来の漆喰色の感じに近いものとし、軒先の黒、及び軒の出の深さと、二階のせり出しにより重厚さと陰影を強調した」とあります。

新潟という地域の周辺環境を意識し、鉄筋コンクリートを用い、伝統的な街並みと調和させた旧會津八一記念館は、新潟の地でつくられたモダニズム建築の貴重な一例と言えます。新潟市の建築史上においても、また市民に長らく親しまれて来たという意味でも、大きな価値ある建物と言えます。

旧記念館のある地域は、新潟市で初の景観形成地区指定を受けており、市の顔となるべき重要な文化ゾーンです。地域住民の意識も高く、通りには「あいづ通り」の名称が付き、新潟駅から萬代橋を経て日本海にいたる、観光面でも重要な軸線の一端に位置し、多くの文化施設が点在しています。

このようなことから、地域の風景にとけ込んだ価値ある旧記念館を、解体するのではなく、耐震補強を施した上で保存活用して頂きたい、また活用については、地域住民、會津八一を慕う方々、観光関係者、周辺の文化施設関係者などによる、多方面からの検討が行なわれ、旧會津八一記念館に新たな生命が吹込まれるべく、貴市の最大なるご配慮を賜りますよう、ここをお願いする次第です。

なお、公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会、並びに同 新潟地域会は、そのために出来る限りの協力をさせて頂く所存です。

敬具